

た つ ど し

平成壬辰歳旦

2012年

鶴^{かく}
雲^{うん}

(李嘉祐)

春分の日に出るといふ白鶴に似た雲。また、鶴と雲。



明石春浦先生

明けて
おめでとうございます。

昨年は東日本が大震災を受けて、福島第一原発事故後の放射線量による避難指示や被災された方々に対する救済・支援等各方面にその爪跡がまだ深く残っています。一日も早い復興が望まれます。

四月二十四日に明石春浦十七回忌の法要が川越の養寿院で行われました。春浦を支えて下さった七十余名の方々が毎日展作品制作のお忙しい中ご出席下さいました。法要後山屋さんでお食事しながら在りし日の面影を思いうかべていました。再会を喜びあいながら和やかなうちに会が終了いたしました。

玄和誌も皆様の暖かいご支援により現在があると感謝いたしております。皆様に愛されるようスタッフ一同頑張ります。

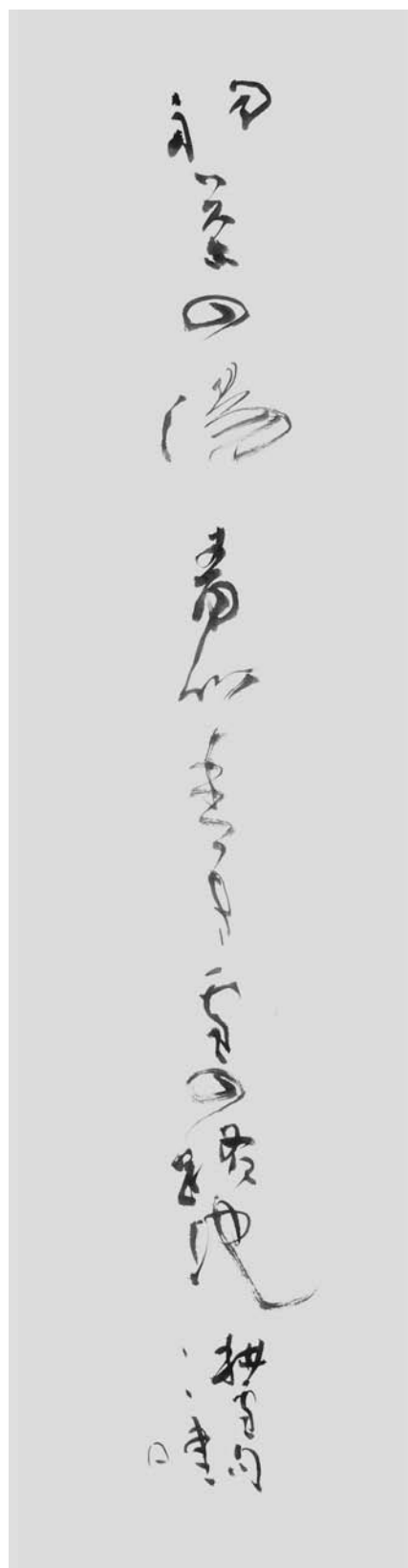
今後ともご支援ご愛読賜りますようよろしくお願いいたします。して新年のご挨拶とさせていただきます。

明石 昌子

条幅部自由参考

1月25日正午必着

明石春浦先生書



初茶の湯 青竹青き 雪の路地 (藤田耕雪)

明石幸子書



芳春已共二煙花盡

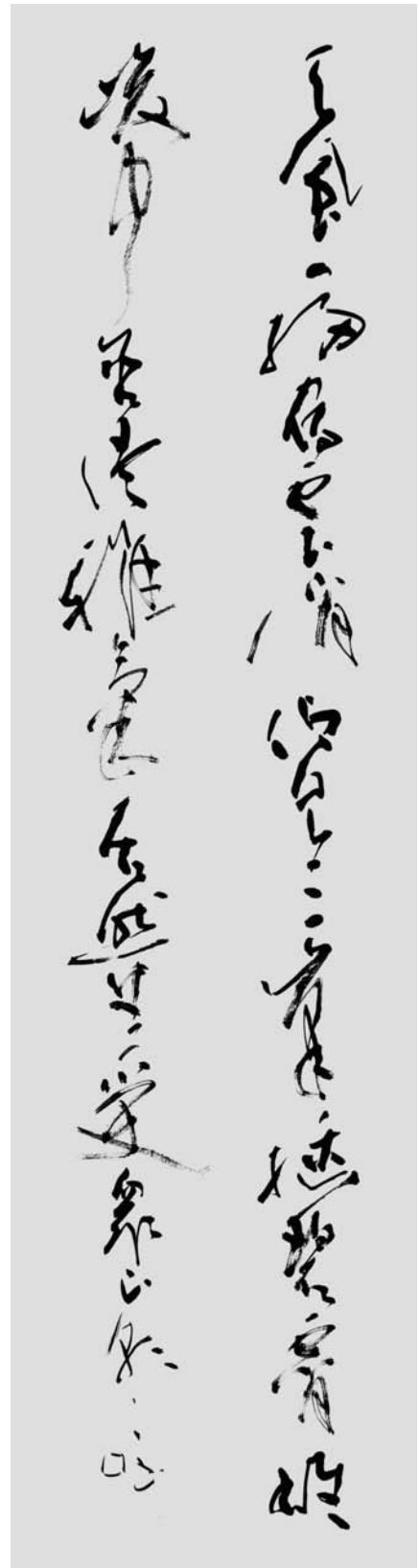
孟夏俄驚草木長

(王守仁)

よき春も最早や霞や花と共にすぎゆき、初夏の候となつて今更の如く草木の茂るのに驚く。

1月25日正午必着

叶 澄石先生書



条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

天風一掃宿雲消

仰見三峰插碧霄

雄峻中含溫雅氣

居然坐受衆山朝

(小野湖山)

春逐鳥聲開 (唐太宗)

春は鳥聲を逐つて開く

春が鳥のさえずりと共にはじまる。

青門日暖塵光動
紫陌花晴風色來 (楊巨源)

青門日暖かに塵光動き
紫陌花晴れて風色來たる

青門は漢の長安城の東南門が青色であつたので青門という。
紫陌は都の市街。花見時の風光。

洛陽早春 (顧況)

洛陽の早春 顧況

何地避春愁 終年憶舊游
一家千里外 百舌五更頭
客路偏逢雨 鄉山不似樓
故園桃李月 伊水向東流

いづれかの地に春愁を避けん 終年 旧遊を憶う
いっか せんり そと ひやくぜつ ごごう ころ
一家 千里の外 百舌 五更の頭
かくろ ひと あめ うみに 逢い 郷山 楼に入らず
故園 桃李の月 伊水 東に向かつて流る

世にあれば ことしの春の花もみつうれしきものは 命なりけり (本居 宣長)

半紙部規定課題A

1月25日正午必着

文
彩
舊
弓
裘

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

1月25日正午必着

行書



隸書



明石春浦先生書

草書



行草書



細やかな春の草が、川岸に緑に茂るとき この若者はけなげにも旅に出る
 やっと元服して冠帯をつけたばかりのわかかわかしさだが その文章の輝かしさは遠く父祖の業を受けつぐ
 野中の渡し場に、花は妍を競って咲き 春の堤に水は乱れつつ流れる
 太守の甥の君を可愛がってくれるだろうが 母堂が心配して待っているのを忘れてはいけない

送王牧往吉州 李嘉祐

謁史君叔上

細草綠汀洲

王孫耐薄游

年華初冠帶

文彩舊弓裘

野渡花爭發

春塘水亂流

史君憐小阮

應念倚門愁

王牧が吉州に往いて

史君叔に謁するを送る

李嘉祐

細草 汀洲に緑に

王孫 耐く薄遊す

年華 初めて冠帯し

文彩 旧と弓裘し

野渡 花争って発き

春塘 水乱れつつ流る

史君 小阮を憐れむも

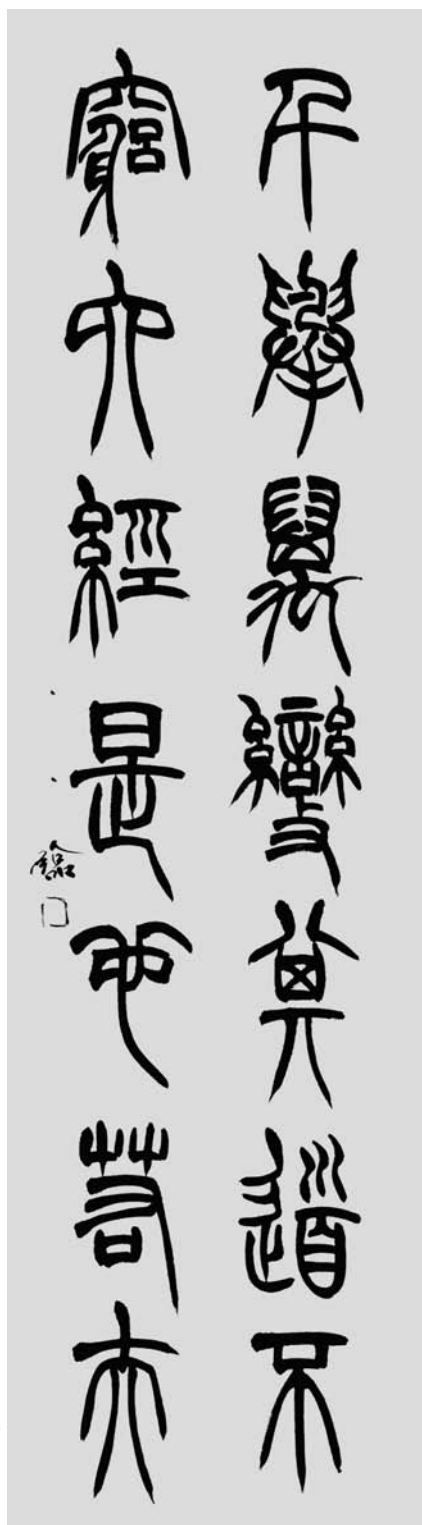
応に倚門の愁いを念うべし

儒之爲言無也。不易之術也。千舉萬變、其道不窮、六經是也。若夫君臣之義、父子之親、
 夫婦之別、朋友之序、此儒者
 亦婦止知易其諧不窮中經是
 市婦止知易其諧不窮中經是

儒之爲言無也。不易之術也。千舉萬變、其道不窮、六經是也。若夫君臣之義、父子之親、
夫婦之別、朋友之序、此儒者

足切磋而不舍也。雖居窮巷陋室之下、內不足以充虛、外不足以蓋形、而明察足
 足切磋而不舍也。雖居窮巷陋室之下、內不足以充虛、外不足以蓋形、而明察足
 足切磋而不舍也。雖居窮巷陋室之下、內不足以充虛、外不足以蓋形、而明察足

所謹守、日切磋而不舍也。雖居窮巷陋室之下、內不足以充虛、外不足以蓋形、而明察足
以持天下。大舉在人上、則



千挙万変して、其の道窮まらざるは、六経是なり。夫れ（君臣の義、父子の親、夫婦の別、朋友の序の）若きは、



千挙万変して、

清 胡澍・篆書 文語四屏（その一・二）
 胡澍は清朝の道光五年（一八二五）安徽省績溪に生まれ、
 同治十一年（一八七二）到北京で病死した。字は菱甫、甘伯・
 丹伯・石生などと号した。
 彼の家柄は古くから進士を出しており、彼も幼い頃から学問
 に励み、挙人の資格を得たが、進士には及第できなかった。
 金石を好み、篆刻に長じ、篆書に巧であったといわれ、趙之
 謙と終生親交があった。趙之謙をして「胡澍がいる間は、私は
 敢えて篆書を作らない」と言わしめたほどの彼の作品は、享年
 四十八歳という若さであったためか、残ったものが少ない。
 この文語四屏は百六十五字を悠然と少しの乱れも見せずま
 めあげられている。重くねばる送筆、それでいて長脚で麗艶な
 篆書の美しさを味わいたい。（春濤）

1月25日正午必着

教育部毛筆

鶴雲

かく
鶴

うん
雲

中学一年

雨宮春聲先生書

梅松竹

しょう ちく ばい
松 竹 梅

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



かど
門

まつ
松

小学五年

藤井良泰先生書



もく
目

ひょう
標

小学六年

森戸春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

1月25日正午必着



こ
古

こん
今

小学三年

細
谷
春
誠
先
生
書



はつ
初

そら
空

小学四年

榎
戸
春
龍
先
生
書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



やす
休 む

小学二年



明石幸子書

そ り 小学一年・幼年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

1月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

お正月は家族で初
もうでに行きます

小学五年

冬の大地に初光がさ
し新しい年が始まる

小学六年

希望を胸にいだき新し
い年の第一歩をしるす

中学

新しき光を浴びて万
物生氣を取りもどす

一般(級位)

白雪の降りてつむれる山里は
住む人さへやおもひ消ゆらん

白雪の降りてつむれる山里は住む人さへやおもひ消ゆらん(壬生忠岑)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

初	日
か	が
や	く
海	に
新	

小学四年

は	つ
空	に
上	が
る	

小学三年

本	年
も	よ
ろ	し
く	

小学二年

し	ん
年	
お	め
で	

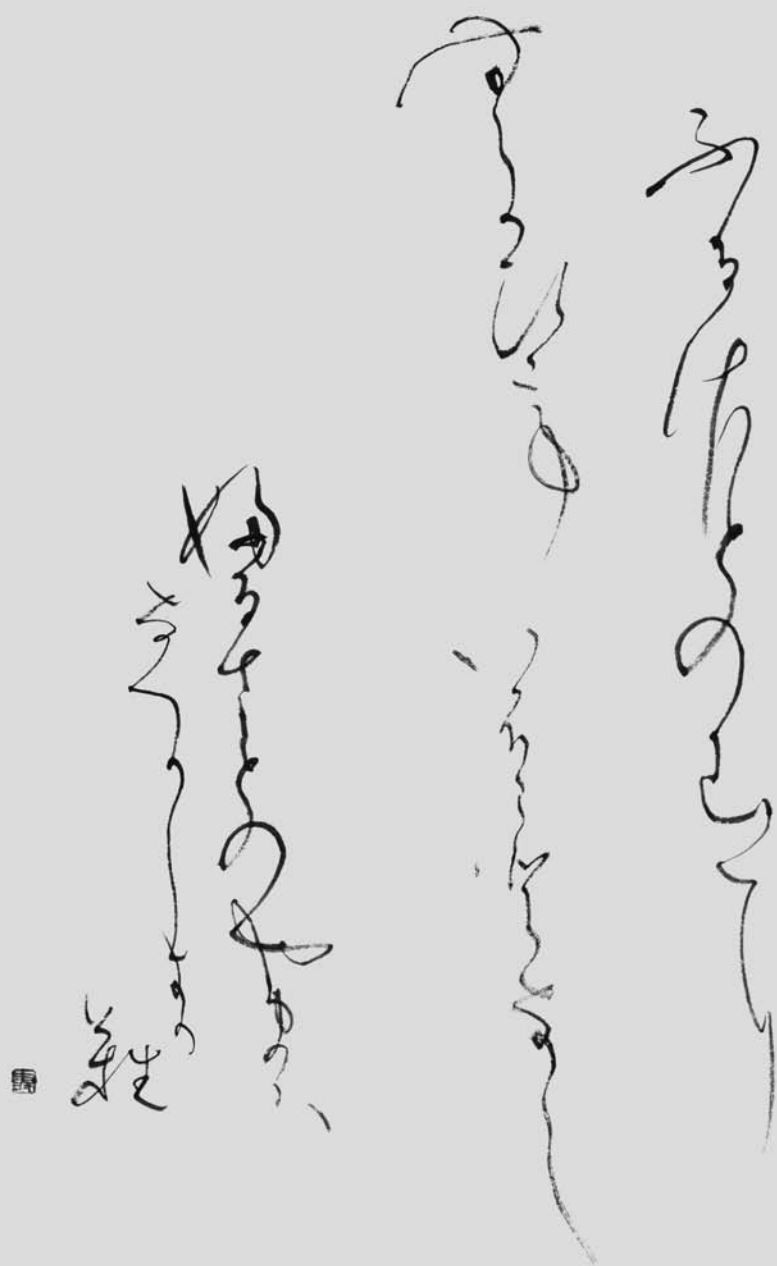
小学一年

あ	
け	ま
し	て
と	

幼年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

ふるさとの 山にむかひて いふことなし
佐 耳無可亭 不登奈 婦
ふるさとのやまは なつかしきかな
八 奈可支可難
(石川啄木)



岩本景楓先生書